

道徳

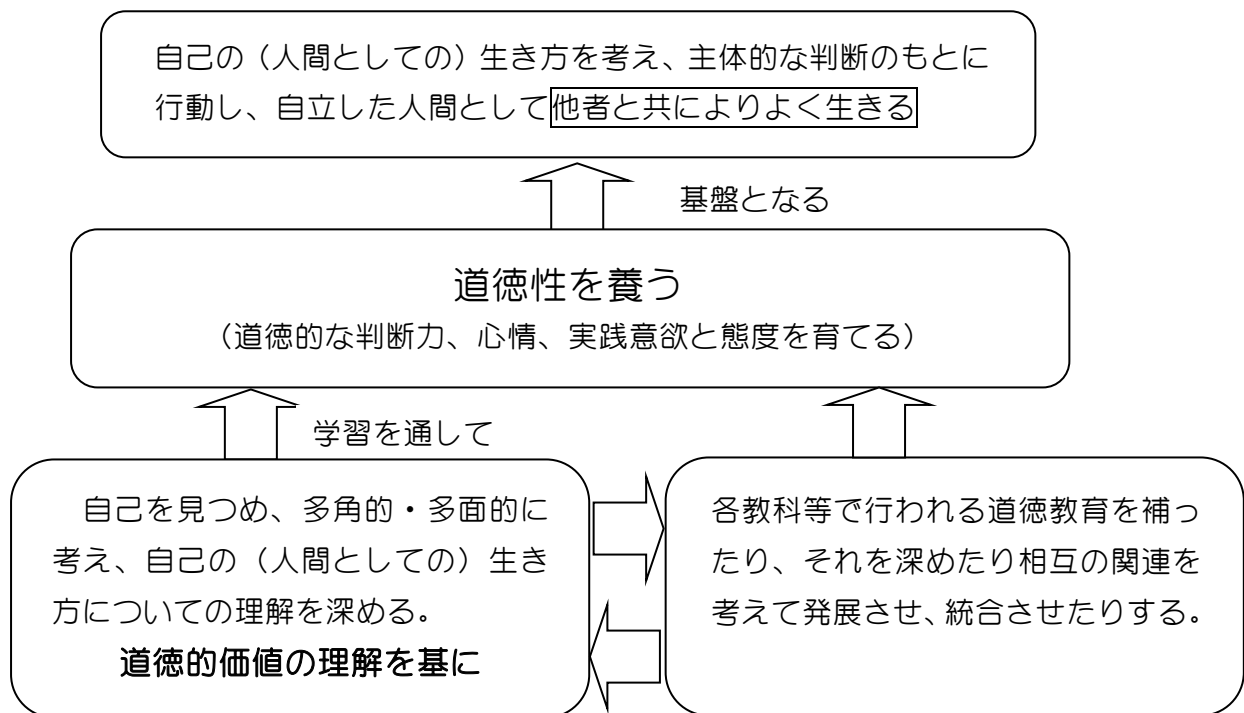
道徳とは・・・

人間が本来持っている「よりよく生きたい」という願いや「よりよい生き方を求めて実践する人間」の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動です。

道徳性とは・・・

人間としての人格の基盤をなすもので、人間が人間として共によりよく生きていく上で最も大切にしなければならないものです。

道徳教育・道徳科の目標



このように、学校における道徳教育の充実を図ります。

道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行います。

学習内容

道徳の時間では、以下の内容項目を年間34時間（1年生）、35時間（2～6年生）で実施

A 主として自分自身に関すること

自己の在り方を自分自身との関わりでとらえ、望ましい自己の形成を図ることに関するもの
【善悪の判断、自律、自由と責任】 【正直、誠実】 【節度、節制】 【個性の伸長】
【希望と勇気、努力と強い意志】 【真理の探究】

B 主として人との関わりに関すること

自己を人との関わりにおいてとらえ、望ましい人間関係の構築を図ることに関するもの
【親切、思いやり】 【感謝】 【礼儀】 【友情、信頼】 【相互理解、寛容】

C 主として集団や社会との関わりに関すること

自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいてとらえ、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに関するもの

【規則の尊重】【公正、公平、社会正義】【勤労、公共の精神】 【家族愛、家庭生活の充実】

【よりよい学校生活、集団生活の充実】【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

【国際理解、国際親善】

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいてとらえ、人間としての自覚を深めることに関するもの

【生命の尊さ】【自然愛護】【感動、畏敬の念】【よりよく生きる喜び】

授業の工夫

- ① 学校生活全般と関連を図りながら**多様な**学習をします。
(他教科と関連させた学習、体験活動を生かした学習、日常生活に生きる 等)
- ② 家庭や地域社会の**連携**を図った学習をします。
(家庭での話し合いをとり入れた学習、地域の人を招いての学習 等)
- ③ **心**に響き**心**が動く指導方法を工夫します。
(読み物資料、ペープサート、ビデオ、CD、写真、新聞などを使っての学習、
どの子も発言できる話し合いの工夫 等)

道徳教育の評価

道徳が教科化になり、どのように評価をするかということですが、文科省より「特に、数値で評価して他の子供たちと比較したり、入試で活用したりすることはしない。」と示されています。つまり、文章による評価が行われます。子供たちが、道徳の授業の話の内容を自分のこととして考えたり、友達の異なる考えなどを受け止めたりしている様子やノートに書いたことなどをもとに評価します。

保護者の方へ

教科書・ノートや「彩の国の道徳」を持ち帰りましたら、ご家庭でも一緒に読んでいただき、前向きな言葉かけや書き込みをしていただき、成長の糧となりますようご協力ください。